

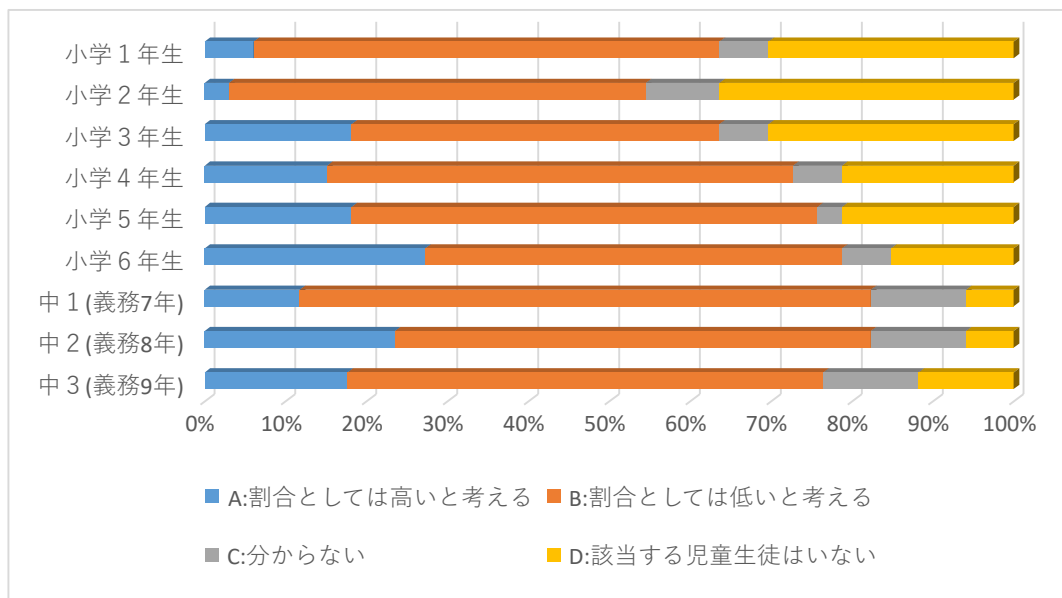
令和7年度メディアに関する児童生徒の状況及びメディア教育に関する取組状況調査資料1-3

調査回答数：松江市内小・中・義務教育学校48校 調査実施期間：令和7年12月～令和8年1月

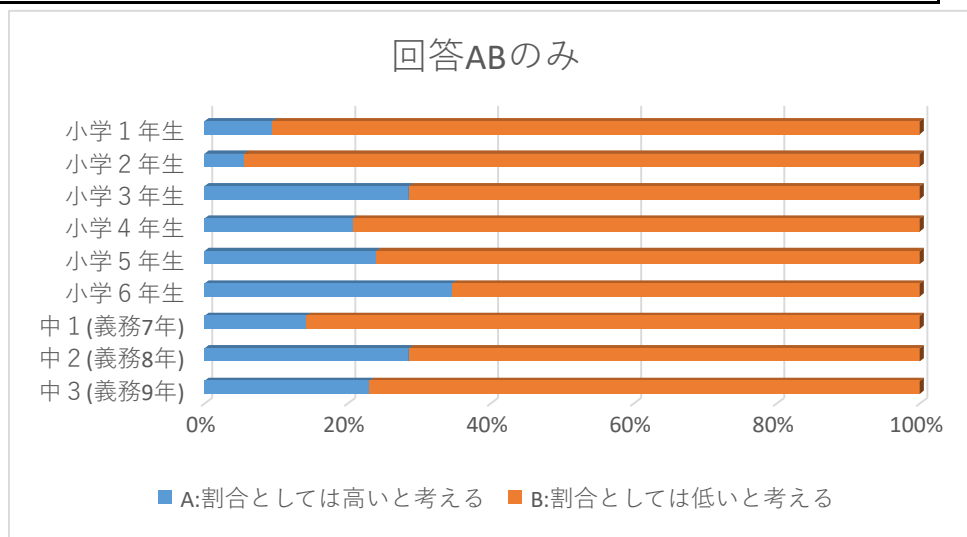
《設問》

(1) 貴校の児童生徒で、睡眠不足、学力低下、イライラする等不安定な様子、不登校傾向を示すなど支援が必要となっている児童生徒のうち、過度なメディア接触が大きく影響していると考えられる児童生徒の割合についてあてはまると考えられるものを下記のA～Dでご記入ください。

A：割合としては高いと考える B：割合としては低いと考える
C：わからない D：該当する児童生徒はいない



◎回答を A：割合としては高いと考える B：割合としては低いと考える としたもの

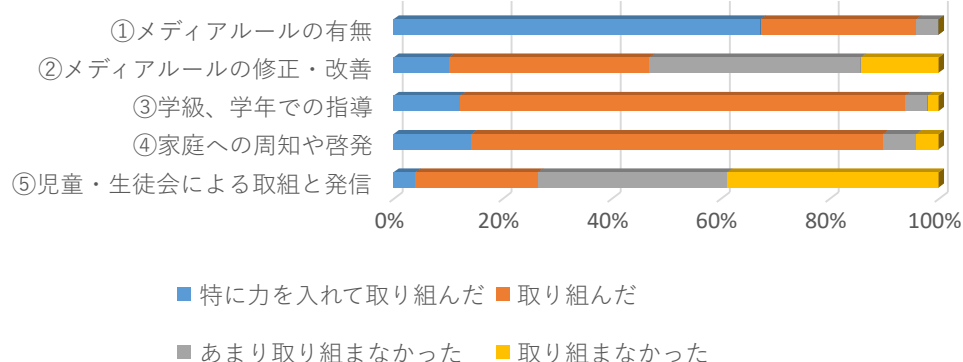


回答を（A:割合としては高いと考えるB:割合としては低いと考える）のみとすると、(A:割合としては高いと考える)がでこぼこはあるが、学年があがるにつれて割合が高くなっている。中学1年では下がるが、また高くなっていく。一番高いのが小学6年生である。中学生になると学校生活や家庭生活が変化するため、小学生と一律に比較できないが、支援が必要な児童生徒に少なからず、過度なメディア接触の影響があることは明らかな課題である。

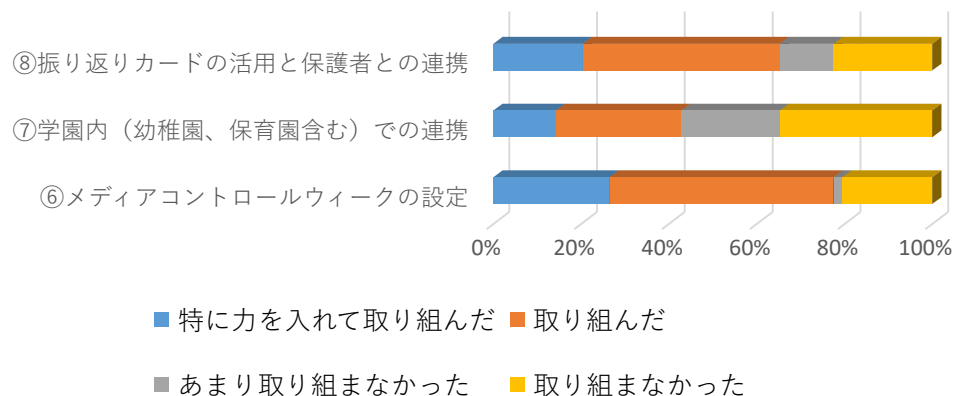
(2) 貴校のメディアに関する取組について、A・B・C・Dにより評価をしてください。回答の段階で「計画しているが未実施」の事業については、実施見込みでご記入ください。

A：特に力を入れて取り組んだ	B：取り組んだ
C：あまり取り組んでいない	D：取り組まなかった

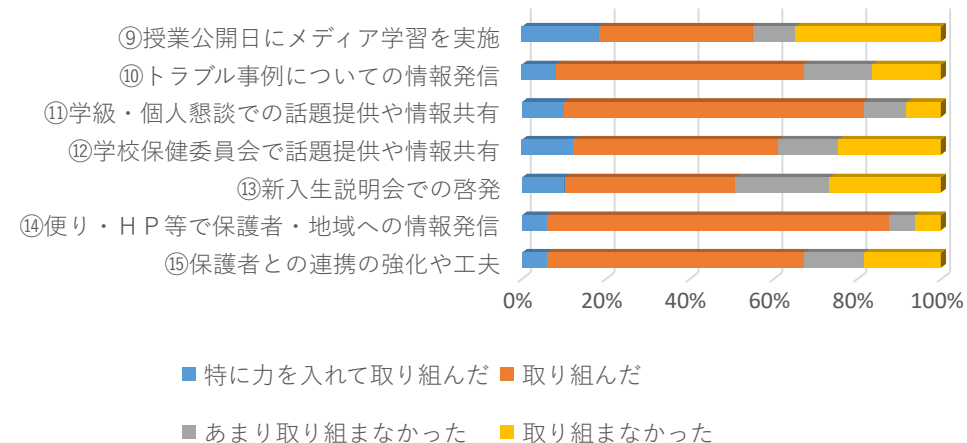
①学校の取組メディアルールについて



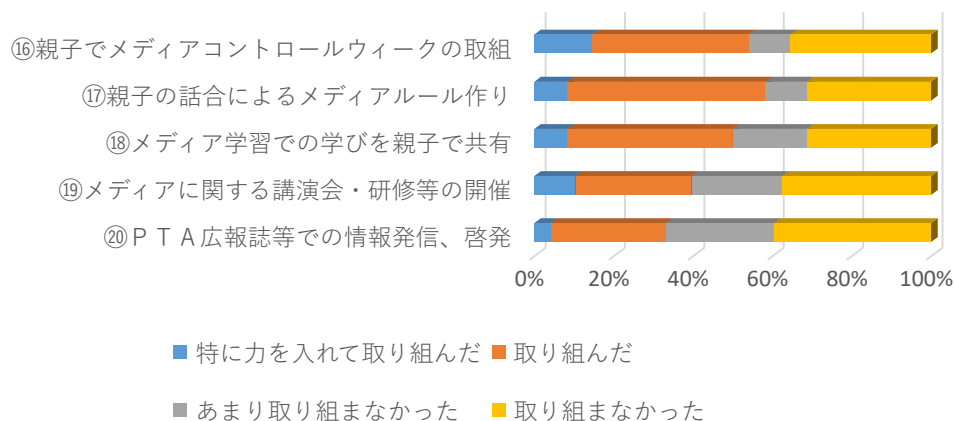
②学校の取組メディアコントロールウィークについて



③学校の取組保護者の意識向上・連携について



④PTA活動の取組について



※①～④に関するまとめ（自由記述含む）

①メディアルールについては取組を行っている学校がほとんどである。内容として、年度当初の授業公開日にメディアに関する学習やルール作りをおこなった、年度当初にタブレット使用のルールを確認し教室に掲示した、長期休業中のメディア利用ルールを設定した（時間、21:30以降は保護者に預ける等）、休憩時間の使用ルール（利用できるサイトの制限等）、児童生徒集会でメディアに関する内容を取り上げた等の報告があった。あまり取り組まなかったは2校、取り組まなかったは0校であった。

②メディアコントロールウィークについては、あまり取り組まなかった1校、取り組まなかった10校であったが、37校は取組を行っている。めあてや取り組み方については児童生徒が自ら考えたり、報告をformsで行ったり、ピンゴ形式で取り組むなどの工夫もみられる。学園内の幼・小・中で連携することによって、きょうだいで取り組める利点もあるようである。めあてを保護者と考えたり、結果を保護者に伝えたりと実施している学校の多くは取組を保護者と連携している。

③保護者との連携は、取組を行っていないとの回答もあるが、記述欄には、メディア学習やメディアコントロールウィークなどメディアに対する取組を行った場合に、保護者に文書で伝えるや、児童生徒の学校での様子を細かく伝えるなど、日常的な取組は多くの学校が行っているようである。また、講演会の実施や学校保健委員会など積極的な啓発も行われている。

④取組の中で、生涯学習課が実施している「親楽プログラム」が好評であったとの声があった。よい取組については、各校にも情報発信したい。

《まとめ》

○各校ともルール作りやメディア学習、保護者への研修会・講演会等、年間を通じて、他と連携しながら取り組んでいることがわかる。ただそれが一方通行にならないようなよりよい取組を模索したいと考える。また、この結果を学校教育課の今後の取組に活かしていく。